招請講演

エビデンスに基づいた 2 型糖尿病の薬物療法
―基礎治療薬としてのメトホルミン―

住谷　哲
公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 糖尿病・内分泌センター部長

2 型糖尿病（T2DM）患者に血糖降下薬を投与する目的は真のアウトカム（総死亡、細小血管障害、大血管障害など）を改善することであり、代用アウトカム（HbA1c など）を改善することではない。従って真のアウトカムを改善する血糖降下薬を選択することが肝要である。これに加えて基礎治療薬には、①確実な血糖降下作用、②低血糖を生じない、③体重を増加させない、④長期の安全性が担保されている、⑤安価である、ことが求められるが、これら全てを満たす薬剤はメトホルミンのみである。従って主要なガイドラインでは、禁忌に該当しない限り、診断されたすべての T2DM 患者にメトホルミンを投与することを推奨している。

しかし日本では、メトホルミン投与のベネフィットがとりわけ大きいと考えられる、心血管疾患を有する T2DM 患者に十分に投与されているとは言い難い。その理由のひとつは、メトホルミン投与による乳酸アシドーシスに対する懸念があると思われる。しかしこの点については、多くの観察研究の結果からメトホルミン投与により乳酸アシドーシスは増加しないことが報告されている。従って、禁忌例（特に腎機能異常患者）への投与を慎重に回避しさえすれば、心血管疾患合併例を含む幅広い患者に安全に投与できる。

本講演では中世ヨーロッパで糖尿病治療に用いられた薬草 *Galega officinalis* から誕生したメトホルミンが 21 世紀の 2 型糖尿病治療に果たす役割を俯瞰したい。

略　歴

昭和 61 年　大阪大学医学部卒業同第三内科学講座入局
平成 5 年　同大学院卒業（医学博士）
平成 6 年　Research Fellow, The Hospital for Sick Children, University of Toronto, Canada
平成 14 年　財団法人日本生命済生会付属日生病院健康管理科医長
平成 18 年　NTT 西日本大阪病院糖尿病療養指導センター長
平成 26 年　公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 糖尿病・内分泌センター部長

所属学会、専門医等

日本内科学会認定総合内科専門医・同指導医・同近畿支部評議員,
日本糖尿病学会糖尿病専門医・同指導医・同近畿支部評議員,
日本内分泌学会内分泌代謝専門医・同指導医・同評議員,
日本医師会認定産業医,
日本人間ドック学会専門医・同指導医,
臨床研究適正評価教育機構（J-CLEAR）評議員
米国糖尿病学会